

# 3人育てるシングルマザー

## 食料支援受け 社会に向き合う

福島県の奥南地方に「食料支援で助けられた。こういう人たちがいたのか」と感激した、苦勞しながら子ども3人を育てているシングルマザーがいます。11月には「日本民主青年同盟に入る」と決めた2人の娘を激励し、自らも喜び、何でも話せる場を見つげたいと社会と向き合い始めています。(福島県・野崎勇雄)

### 福島

この女性は、長女(短中、東日本大震災・原発大1年)、次女(高校1 事故が発生。その直後に年)、三女(小学5年)を3人目を出産し、「このかかえるシングルマザー 子たちを守り、育て上げ」、木村幸恵さん(40) たい「と心に強く決めました。|| 仮名||です。

離婚して11年。子どもが寝ている夜中にファミレスで働くこともあった厳しい生活が続く 団体などでつくる実行委

#### どん底の暮らし

今年の4月初め、民主



「何でも話せる場がほしい」と語る 木村さん(手前) =福島県白河市

## 「こんな親切な人たちがいた」

員会が白河市で取り組んでいる食料支援の案内チラシが目にとまりました。

「暮らしはどん底状態でした。長女と次女の進学が重なった上に、難病にかかった次女の入院や通院、健康管理のため職を辞めざるを得なくなりました」と話す木村さん。

#### 娘も受け取れた

食料支援に行こうか迷いましたが、訪ねてみるとお年寄りの子育て中の親など、たくさんの方が来ていました。米、野菜、缶詰などがたっぷり。ついてきた娘たちも受け取ることができ、合わせて木村家の食料の1カ月分以上。物価高の中、日用品や生理用品にも助けられました。

「こんな親切な人たちがいたのか。こういうことをやり、助けてくれるのか」涙が出たという木村さん。

会場で彼女が書いたアンケートには「シングルマザーで子どもが3人。この4月をどう生活しようかと悩んでおりまして。2人のお弁当、私はおにぎりだけ。下の子ども(3人目)の成長期にな

んどか栄養のあるものかと思っていたので、本当に感謝でいっぱいです」と書かれていました。

その後、食料支援実行委員の紹介で日本共産党奥南地区委員長の相馬健一氏と会い、「相馬さんは)ちゃんと話を聞いてくれるし、手を差し伸べてくれる」と信頼感を抱きました。次女が病氣治療したときの18歳までの医療費無料化を実現した運動にも共産党が尽力したことを、初めて聞きました。

#### 民青加盟見守る

8月の食料支援行動では娘3人を相馬さんらに紹介。娘たちも、青年の間でなんでも話し合えたがり、半ぶ場ができ、行動が広がりました。その中で11月、上の2人が民青への加盟を決意しました。

木村さんは娘たちを温かく見守り、こう話します。

「自分たちで勉強し、視野を広げてほしい。民青に入ることで視野が広がり、考える力がつけば、自分のやりたいことが見つかるのではないか。私は賛成したけど、決断したのは自分たち。そこが大事だと思う」木村さんは、「次女も元気になったので、まずは職探しです。次は何でも話せる場がほしい」と話しました。